

令和 2 年度の事業報告書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸

1 事業の成果

嘉瀬川と嘉瀬川流域における地域活性化、観光・産業振興に資するため、不特定多数の市民・団体等を対象とした各種イベントの実施、各種メディアを用いた広報活動等を行った。事業実施に当たっては、市報等を通して不特定多数の市民、団体等に幅広く呼び掛け、一般市民が参加可能な公益事業となるよう努力した。今年度も、国土交通省武雄河川事務所、佐賀市河川砂防課から嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館の運営支援事業を受託し、防災及び環境に関する各種事業を実施した。

法人の自主事業として、水源地域連携・活性化促進協議会と共催で「第 9 回嘉瀬川ダム感謝祭」を計画したが、コロナウィルスの影響を考慮してこれまで開催していた嘉瀬川ダム前広場ではなく、国土交通省嘉瀬川ダム出張所内の会議室で人数を絞り、交流会を行わない形で実施した。また、水源地域連携・活性化促進協議会の支援を得て「嘉瀬川の自然を学び楽しむ子ども塾」を開催した。さらに、昨年度に引き続き e-さが基金の支援を得て、「牡蠣礁復活事業と森林公園水環境復活事業」を実施することができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実 施日時 (B) 当該事業の実 施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
① 嘉瀬川と嘉瀬川流域に関連した環境教育及び生涯教育に関する事業	さが水ものがたり館の運営補助 石井樋公園内のさが水ものがたり館の運営補助を佐賀市及び国土交通省武雄河川事務所から受託し、事業を行うことができた。コロナ禍にもかかわらず前年度より多く来訪した小学生に「暴れる水と命の水」の大切さや成富兵庫茂安の治績等を説明することができた。さらに、カヌー教室・川流れ・水生昆虫観察等の体験学習を実施（6 回）した。さが水ものがたり館のメイン事業である嘉瀬川交流塾は、緊急事態宣言期間中に 2 度開催できなかったが、バス見学会を 2 回開催すること	(A) 休館日を除く 毎日 (B) さが水ものがたり館 (C) 10 名程度	(D) 佐賀市を中心とした一般市民 (E) 1.5 万人程度	8,330

	で、例年同様 12 回の交流塾を開催することができた。			
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	佐賀県森川海っ人プロジェクトへの参加 佐賀県森川海っ人プロジェクトのメインイベントとして、多布施川公園・石井樋公園・さが水ものがたり館で開催された「第3回佐賀県森川海っ人フェスティバル」に参加し、成富兵庫茂安に関する講話を行った。 また、佐賀県河川砂防課が主宰する佐賀県 KAWARU プロジェクトと、当法人が事務局を務める佐賀県内河川活動団体「佐賀水ネット」とのコラボ発表会を佐賀県庁 SAGA CHIKA（サガ チカ）で実施し、団体間の交流を深めた。 また、佐賀県 KAWARU プロジェクトの支援を得て 3D ドローン映像の可能性事業を開始した	佐賀県森川海っ人フェスティバル (A) 8 月 8 日（土） (B) 多布施川公園・石井樋公園・さが水ものがたり館 (C) 3 名 コラボ発表会 A) 1 月 30 日（土） (B) 佐賀県庁 SAGA CHIKA (C) 10 名	(D) 佐賀県内からの一般市民 (E) 800 人程度 (D) 佐賀県内の河川団体及び佐賀県職員 (E) 80 人程度	20
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	出張出前講義 嘉瀬川流域においても、平成 29 年度の九州北部豪雨、令和 2 年 7 月豪雨時に浸水被害が発生し、水防災に関する関心が高まりつつある。佐賀市内の自治会・公民会を中心に防災に関する講演依頼が多く寄せられ、それに応じて合計 18 回の出張出前講義を行った。	A) 令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月 (B) 公民館等各所 (C) 1 名	(D) 主催者が募集した一般市民 (E) 総参加者概数 700 人程度	20
②嘉瀬川流域の地域連携及び地域づくりに関する事業	水源地域連携・活性化促進協議会支援事業 近年、予想外の規模での災害が後を絶たない中「自分の身は自分で守る」事をモットーに「自助力を楽しく身につけさせる」為、毎月一回の「水の自然塾」を開催し子供が持つ可能性を引き出していく事を目標として「さが水ものがたり館自然塾」を開催した。今年度は、石井樋公園内の竹材を用いてツリーハウス造りに挑戦し、竹切りから始まる 6 回の作業を経	7 月～2 月 合計 8 回の塾開講 スタッフ 2 名	募集に応じた市内の小中学生 5 名 延べ 30 名	200

	て完成させた。その成果を1月30日、12月1日に佐賀県庁で開催したホールで開催した「佐賀県KAWARU プロジェクトとの佐賀水ネットのコラボ発表会」で発表した			
④ 嘉瀬川及び嘉瀬川流域における防災や水利用を含めた環境問題の啓蒙、調査研究に関する事業	河川協力団体受託事業 昨年同様、河川協力団体として河川法にともなう受託事業を受けて2つの事業を行った。本年度は「嘉瀬川石井樋周辺利活用及び管理検討会（A 検討会）」「嘉瀬川水辺空間利活用検討会（B 検討会）」の2つの検討会を運営する事業を受託し、専門家・市民の参加を得て各検討会3回、合計6回の検討会を実施し、嘉瀬川及びクリーク・水路における防災と水辺の利活用に関する検討を行った。	A 検討会 9月～2月計3回 主にさが水ものがたり館 スタッフ2名 B 検討会 10月～3月計3回 さが水ものがたり館及び スタッフ2名	専門家・まちづくり協議会会長等に依頼した委員 延べ50名 専門家・市民活動家・一般市民等 延べ55人	2000
⑤ 嘉瀬川及び嘉瀬川流域の環境の創出等に関する事業	森林公園水環境復活作戦 3町（嘉瀬・久保田・鍋島）まちづくり協議会、佐賀県佐賀土木事務所、森林公園管理者等と連携し、荏原環境プラント「e-さが基金」の支援を得て、森林公園自然池北端に設置したビオトープ・水路に池干し時でも水循環が可能となる施設を新設し、池干し事業を実施することができた。加えてビオトープ池周辺にアジサイの植栽を行った。	(A)合計8回の検討会、10月31日池干し事業 (B)検討会：森林公園管理事務所 池干し事業：佐賀県立森林公園自然池 アジサイ植栽：ビオトープ池周辺 (C)延べ10名程度	(D)まちづくり協議会役員、佐賀市民及び有明海沿岸域住民 (E)延べ350名程度	600
⑥ その他、この法人の目的の達成及び活動の実現するために必要な事業等	兵庫竹林活用・カキ礁復活 荏原環境プラント「e-さが基金」の支援を得て、石井樋公園内竹林の竹を切り、有明海に立て込む事業を行った。 1) 兵庫竹林の竹切り 2) カキ礁復活のための竹立て	(A) 竹切り作業 1) 6月8日、11月26日 干潟竹立て 2) 8月1日 (B) 1) 水ものがたり館周辺 2) 嘉瀬川河口 (C) 5名	(D)佐賀市民 (E)延べ85名程度	200